



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

# 中部の森林



囲いワナの設置作業を行う職員

## 「ニホンジカ被害対策プロジェクトチーム」

### の取り組み

(P 2～3 に関連記事)

主 な 項 目	○ ニホンジカ「囲いワナによる捕獲実証試験」 .....	P 2～3
	○ 各地からのたより .....	P 4
	○ シリーズ森林官からの便り .....	P 5
	○ 風景紀行 .....	P 6

# 長野・岐阜准フォレスター 連携会議の開催

【指導普及課】「長野・岐阜准フォレスター連携会議」が平成二十四年八月二十二、二十三日の両日、北信木材センター及び下高井郡山ノ内町の民有林事業地で開催されました。当会議は、長野県林務部と岐阜県林政部とが共同して本年度始まったものであり、平成二十五年度から開始されるフォレスター制度の運用に先立ち、現在両県で活動している准



全体会議の様子



活動報告をする  
岐阜県准フォレスター

フォレスターがお互い連携し、「森林づくり」や「道づくり」等に対しての課題の洗い出しや解決方法の検討などを目的に両県の県職員准フォレスターが参集して実施されるものです。

五月に岐阜県で開催された第一回会議では、両県職員の顔合わせとそれぞれの課題について情報交換がなされましたが、二回目の今回は、これからの面的な林地経営を考えていく上で、国有林と民有林の連携・協力は必要不可欠であることから、国有林側から両県に働きかけ、長野・岐阜県内各森林管理署の准フォレスター八名も参加して意見交換や現地研修に臨みました。

会議は、両県及び中部局からそれぞれあいさつの後、長野庁の人材育成検討委員会の委員でもある長野県の小島主任林業専門技術員から「フォレスター制度」の現在の検討状況の説明がありました。続いて、准フォレスター活動の取組について、長野、岐阜両県からそれぞれ一名が発表、国有林からは「中部局における准フォレスターの活動体制について」指導普及課長が説明しました。意見交換会では、「現AGとフォレスターの違いが見いだせない!」「フォレスターでなければできないものは何か?」「市町村をはじめ民有林行政との関わりを考えると県と国で准フォレスター活動の位置づけが自ずと違うため活動しづらいのでは?」といった課題や現状の問題点につ



現地研修の様子

いてざつくばらんな意見が出され、本庁へ意見を伝えることも含め活発な意見交換が行われました。

二日目は山ノ内町の北信州森林組合が実施している間伐作業地で現地研修を行いました。

事業地は約六十戸の零細林家を取りまとめた施業団地化されており、計画的な施業が実施され、タワーヤダとジグザグ滑車(信州式搬出法)による搬出方法を視察しました。現地においても准フォレスターからコストや機械の維持費、稼働率、技術の伝承方法や集約化にあたっての苦労話などについて活発な質問が出されました。

今後も、引き続き長野・岐阜両県及び民・国が連携・協力して情報交換や活動報告を行いフォレスター活動の輪を広げ、市町村等への適確な支援を行っていくこととし散会しました。

# ニホンジカ被害対策 「囲いワナによる捕獲実証試験」

【指導普及課】ニホンジカの被害対策については、平成二十四年度中部森林管理局の重点取組事項のひとつとして取り組んでいるところであり、局内に「ニホンジカ被害対策プロジェクトチーム」を設置し、関係各課間の情報交換・共有化を図りつつ効果的な対策、必要な対処方針等の検討をしているところです。

この度、局プロジェクトチームでは、東信森林管理署の協力を得て、囲いワナ等を設置し捕獲実証試験を行うこととし、八月二十八日から三十日にかけて関係課職員により囲いワナの設置作業を行いました。



柵の設置作業を行う職員

個体数調整のためのニホンジカの捕獲については、職員でも実施可能であること



完成した囲いワナの追い込み・搬出スペース

このため、比較的頻繁に見回る必要がなく、また、鹿肉が美味しく食べることができるよう肉の品質を保つことが可能な捕獲方法として囲いワナを試験的に設置し、捕獲から食肉利用までを視野に効率的な方策を検討することとしました。

設置する囲いワナについては、安価で、なるべく警戒心を持たないような構造とし、青草が無くなる時期以降、

くりワナの設置が、効果的な方法として実施されていますが、頻繁に見回りが必要なことや捕獲後の止め刺しや埋設などに課題があります。また、くりワナにかかったニホンジカは肉の品質低下を招くストレスホルモンが出る、食肉利用の普及を進める上ではデメリットにもなっています。



職員の案内により自然観察

森林探検隊は一般の方を対象に、国有林での自然散策等を通じて、森林の重要性や国有林の取組等について理解を深めていただくことを目的に開催したもので、長野・上田地域に在住される方を中

複数のシカを一度に捕獲できることを願いつつ作業を行いました。

なお、捕獲されたシカは塩尻市にある食肉加工場へ生きたまま搬入することとされています。

**「森林探検隊」を開催**

【指導普及課】 八月二十五日（土）北佐

久郡軽井沢町の小瀬・竜返し滝の滝自然観察教育林外で「森林探検隊」を開催しました。

心に、三才から七十九才まで幅広い年齢層の四十二名が参加され、連日猛暑が続いている市街地を離れ、豊かな自然に恵まれた浅間山麓の森林を散策しました。

午前中の自然観察では、林道と約五十年前まで運行していた草軽電鉄の軌道跡三キロの道程を約二時間半かけ、沿線のカラマツ、ハルニレなどの森林と植物等の観察のほか、当時、軽井沢と草津間を小さな電車がのんびり走っていた経緯や、最近の関心事であるニホンジカ等野生鳥獣との共生について、職員の丁寧な説明に参加者は興味深く聞き入っていました。

また、午後は多くの観光客で賑わう「白糸の滝」を訪れ、岩肌から地下水が



参加者で記念撮影

流れ落ちる様子が数百条の糸に例えられている滝を見学し、台風によって土砂崩れなどの被害を受け治山事業により緑と清流が蘇った周辺の状況に大変感心された様子でした。

参加者の方からは、東信署職員の手作りの「しおり」、人形をかたどった木製ストラップのお礼と、今回のような自然散策会を引き続き企画してほしいといった要望をいただきました。

今回の森林探検隊は、募集締め切り後も申込み希望や問合せがあり反響が大きかったところですが、幅広い世代に、森林、国有林野事業に関心を持っていただく機会となりました。

**献血運動の協力推進について**

【職員厚生課】この度、中部森林管理局が「第四十八回献血運動推進全国大会」において表彰され、長野労働局を通じて厚生労働大臣から感謝状が授与されました。

この賞は、献血に積極的に協力し、献血普及のための広報活動にも積極的に取り組むなどにより、他の模範となる実績を示した団体等に対して贈られるもので、中部森林管理局本局においては、毎年春と秋の年二回、長野県赤十字血液センターからの要請を受け、職員が献血に協力してきたことが評価されたもので

す。

引き続き、病气やけがなどで輸血を必要としている患者さんの尊い生命を救うための一助となるべく、献血運動に協力していききたいと考えています。



感謝状と記念品

### 各地からのたより

#### ボランティア募り、北アルプス

#### 双六池周辺の環境保全活動を実施

〔飛騨署〕当署では、北アルプスの環境保全活動の一環として、双六（すごろく）池周辺の保全活動を行っています。

双六池（標高約二千六百メートル）は、中部山岳国立公園の特別保護地域に指定されており、双六岳（二千八百六十メートル）の頂上直下に位置する池で、周辺にはチンゲルマヤヨツバシオガマ、ミヤマリンドウなどの高山植物が咲く美しい景観を誇る場所です。

この保全活動は、縦沢岳（もみさわだけ）や双六岳から流れ込む雨水等により周辺が侵食されて双六池に土砂が堆積し、植生の後退を招いていた状況から、登山者や山小屋関係者からの強い要望に応えて実施しているもので、平成十八年度と平成十九年度に人力による素掘の側溝と沈砂池の作設、ネット張り等の作業をそれぞれ実施して経過を観てきました。高山地帯という厳しい条件から、施工したムシロの劣化や風化が著しく進み、再び池に土砂が流入し始めてきたことから、今年度五年ぶりに双六池周辺の環境保全活動を実施することとしたものです。

今回の保全活動の実施に当たっては、神岡森林事務所を中心とした神岡チーム



土嚢を運搬する作業者



土嚢を設置し杭でとめる作業

（旧神岡事務所管内の森林官及び事業所主任）、環境省平湯自然保護官事務所、双六小屋の三者で協議して計画を進めるとともに、森林パトロールボランティア五団体、（社）名古屋林業土木協会、名古屋造林素材生産事業協会、山小屋関係者らに保全活動へのボランティア参加を呼び掛けました。

その結果、当署職員を含む二十一名が集まり、夏山シーズン後半の八月三十日（木）と三十一日（金）の二日間に亘って保全活動を実施しました。

当日、早朝六時に神岡森林事務所に集合し、現地まで片道六時間程の道のりを踏破したのち、双六池周辺において、計画した作業を全員持ち場に分かれて開始しました。

今回の保全活動は、池への土砂等の流入防止や植生回復効果のある土嚢袋による土留工や前回活動の整理等を行うこと

としており、参加者は、六時間余りの登山の疲れも見せずに、土嚢袋への土詰め作業・運搬・設置・杭止め等の作業を實際よくこなし、計画した二日間の作業を全て実施することができました。

天候にも恵まれ、作業を終えた参加者は一様に計画された保全作業をやり遂げた達成感と北アルプスの環境保全活動の一助を担えた満足感に浸りました。

午前十時、双六池の美しい光景に後ろ髪を引かれながら帰路に着き、四時間程の道のりを下山して参加者全員無事に帰宅しました。

今後も、当該エリアにおける浸食の状況を経過観察しながら、その保全に貢献できればと考えています。

今回の活動を通じて、ボランティアで参加した皆さんや山小屋の管理人、レン



作業お疲れ様でした



国際森林年記念行事として森林教室も実施



「東信森林管理署軽井沢森林事務所」

宮本 まどか 森林官

軽井沢森林事務所は、長野県を代表する観光地、北佐久郡軽井沢町にあります。国有林内には、白糸の滝、国設野鳥の森、鼻曲山、小浅間（浅間山は隣の御代田森林事務所）と観光スポットも多く

ジャーの方々との信頼関係を一層深めることのできた二日間でした。

あります。避暑地として有名な軽井沢は夏には人口が約十倍に増加するといわれ年間約七百七十万人の観光客が訪れます。

国有林に隣接する別荘地や住宅地、観光地も多く、様々な立場の人がおり、自然観の違いや森林への期待、要望が異なり対応に戸惑うことが多々あります。自分自身も一方から森林を見ないで視野を広げて対応していかなければいけないと感じています。

昨年は、国際森林年に因み、軽井沢国際森林年記念事業実行委員会（軽井沢野生動物問題研究会クロス、東信森林管理署）主催による「軽井沢国際森林年記念事業」がありました。自然観察ツアー三回、シンポジウム一回、野生動物とのばったり遭遇を防ぐ薮刈り（軽井沢町、御代田森林事務所管内）がありました。様々な人達と共同で作りに上げていくことの楽しさ、大変さを感じました。また、イベントを通じて、国有林や林業について、正しく理解してもらおう事の大切さと、森づくりのプロとしての私たち職員への期待の大きさを感じました。

軽井沢森林事務所は観光箇所ばかりかと思われがちですが、造林地も多くあります。現在は数軒が残っているだけになってしまいましたが、明治四十二年から昭和四十年半ばまで専属的な林業労働集団として長日向地区に「小瀬林業村」があり最盛期には十二世帯程度が生活し



自然観察会で案内を行う宮本森林官

当時スキ原野が多かった浅間山麓に造林を実施したこと等により、現在はカラマツや広葉樹の森林に覆われています。現在わずかに残っている高齢級のカラマツ林をみると、車も機械も普及していない当時の人達が植えて育てた苦労が想像できます。

また、確井鉄道が開通した頃、将来の枕木用に植えたヒノキの高齢級の林があることを現場の基幹作業職員から教えてもらいました。林業がその時々時代の要請に応えるため、何世代にも亘って守り育てなければ成り立たない産業であることを、長年の経験者から聞ける機会があったことに感謝しています。

今年は、森林計画の予備編成のため、特に山に入る事が多いのですが、頻繁に

シカを見かけます。昨年より多いような気がします。浅間山麓でもシカやイノシシが増えてきている状況と感じています。東信森林管理署でも民・国連携したシカ対策を行っていますが、対策を通して森林を適正な状態に保てることを期待しています。

涼しくなり林野巡視が楽しい時期になりました。現地をよく見て地域の声に耳を傾け、今何をすべきかを考え、業務を行っていきたくと考えています。

## 人のういき

中部森林管理局

九月一日付

▽林野庁出向（木曾署治山課治山第二係長） 萩原 伸也

▽木曾森林管理署治山課治山第二係長（木曾署南木曾支署治山課治山第三係長） 仲上 曜次郎

▽木曾森林管理署南木曾支署治山課治山第三係（木曾署南木曾支署土木係） 守屋 徹郎

▽木曾森林管理署総務課付（木曾署笹川森林事務所森林官） 彦瀬 卓也

▽飛騨森林管理署業務第一課森林ふれあい係長（飛騨署業務第一課付） 大西 沙織



## 南アルプスの西の玄関口

〔南信署〕長野県伊那市長谷（旧長谷村）地区は、長野、山梨、静岡の三県にまたがる南アルプスの西の玄関口であり、また古くは伊那谷から遠州へ至る秋葉街道の宿場であるとともに、分杭峠、鹿嶺高原、三峰川源流など大自然あふれる地域です。

### 南アルプスの登山口

南アルプス国立公園は、三、〇〇〇メートル級の高峰十座を有する甲斐駒・鳳凰山系、白峰山系、明石山系の三つの大きな山系により構成された山岳公園であり、東西は約十五キロメートル、南北は約五十キロメートルの雄大で重量感ある山岳景観を有するとともに、大井川、天竜川、富士川の源流部となっています。

当長谷地区には、日本百名山である甲斐駒ヶ岳（標高二、九六七メートル）、仙丈ヶ岳（三、〇三三メートル）、塩見岳（三、〇五二メートル）の三つがあり、多くの登山者に愛されて

います。特に、仙丈ヶ岳は、三つのカールを抱え多くの高山植物が咲きみだれることや優美な山容が特徴で、「南アルプスの女王」ともいわれています。しかし、近年この高山植物がニホンジカによる被害を受け大きな痛手を受けていることから、当署及びボランティア等による防鹿柵設置を行い保護に努めているところです。

この地域の国有林野は南アルプスを主体に管理し森林生態系保護地域など各種保護林のみならず、地元の方々と共に後世に残す努力を行っています。



仙丈ヶ岳の藪沢カール

### 南アルプス林道

南アルプス林道は、長野県伊那市長谷の戸台口から山梨県南アルプス市広河原間五十七・九キロメートルを結ぶ山岳林道です。開発に当たり地元要望と自然保護団体と

の調整が難航し、完成までには十三年の年月を要しました。現在、長野県側は、市営バスが四月から十一月まで運行し、登山者や観光客を県境であり登山の出発点でもある北沢峠まで運行しております。乗車バス内では、運転手による地質・植物・動物等について説明がありますので、初めての方も楽しめるのではないのでしょうか。また、戸台大橋からは一般車の通行が規制されております。



戸台大橋の料金所

### 分杭峠

日本最大の断層「中央構造線」が縦貫する分杭峠は、ゼロ磁場としても近年有名となり多くの観光客が訪れます。ゼロ



北沢峠の案内看板

磁場とは、中国の気功師、張志祥氏により発見された場所で、「人が幸せになれる場所」ともいわれ多くの人が癒しを求め訪れています。

### ◆所在地（北沢峠）

長野県伊那市長谷

### ◆アクセス

#### 「公共交通機関」

伊那市駅よりJRバス高遠行に乗り、高遠にて長谷循環バスに乗り換え、仙流荘より市営バスに乗り換えて長衛荘下車 約二時間三〇分

#### 「自家用車」

中央道伊那インターから仙流荘まで約四〇分 市営バスに乗り換えて長衛荘下車 一時間